



2020年12月

今後12カ月のグローバル経済
および投資環境の見通し



DWSの見解

マクロ経済

- ウイルスへの対処を学ぶのは常に平坦なプロセスではなかったかもしれないが、進展の兆しが見え始めた。
- このような急激な景気減退を受けて経済に長期的な傷跡が残ることが予想されるかもしれないが、現時点ではそのような兆しはほとんどない。
- 足元数カ月の経済の回復は、ロックダウンの措置が完全に解除されれば、将来が明るいことをうかがわせる。

債券

- 我々の見解では、2021年にかけて、社債およびその他のクレジット資産クラスは非常によりリスクリワード・プロファイルとなるだろう。
- 国債の金利は、中央銀行がコロナ禍の打撃を抑え込もうとしている中で、1年前に考えていたよりもさらに長く低位にとどまると見ている。
- 為替にはほとんど動きがないと予測しており、米ドルから手を引くのはまだ時期尚早だと考えられる。

株式

- 2020年末には市場の重荷となっていた様々なリスクが薄れ、投資家を強気にさせている。
- 新型コロナ感染拡大の抑え込みにつながるワクチン開発と、長く続く低金利環境が、我々の株式に対する楽観的な見方の根拠となっている。
- 我々は、地域としてはアジアを选好し、セクターとしてはテクノロジーを选好する。景気敏感株および割安株の足元の急上昇は短期的に終わると見込んでいる。

オルタナティブ

- 米国インフラは数十年にわたって投資不足であり、依然として追加支出を必要としている。これが、投資家にとって潜在的な投資機会を生み出すだろう。
- 全般的に、インフラに対しては超党派の支援があると期待している。二大政党が拮抗する上院が重要な役割を果たすだろう。
- この点は、立法の行方を判断する際に、経済的な考慮と政治的な考慮が複雑に相互作用し合っていることを示している。

マルチアセット

- ワクチンに関する前向きなニュースのおかげで、2021年には経済が回復すると考えられる。
- 中央銀行が依然として手厚い支援をしていることは、投資家から評価されている。
- リスクオン環境に備えている投資家がこの状況に気付かないわけではない。このような理由もあって、2021年に向けて我々は適切な分散を図っていく。

ESG(環境・社会・ガバナンス)

- セクターの観点からは、エネルギーと素材が水に由来する非常に高い水準のリスクをはらんでいる。
- 金融、ヘルスケア、通信サービスのサブセクターに加えて、輸送といった産業セクターの一部も、水リスクが比較的低いと見ている。
- ESG(環境・社会・ガバナンス)の基準を統合することで、潜在的な投資機会とリスクを洗い出すことにつながる。

2021年は驚くほど楽観的なものに

年末が近づくにつれて、2020年の大きなリスクはそれほど悪いものではないと感じるようになり、投資家は期待を持って2021年を迎えようとしています。我々は低金利が依然としてカギになると考えています。

“ コロナ禍が今後数カ月は消費者と企業の足枷となるでしょう。しかし、投資家は厳しい現状の先を見据え、企業収益の伸びと今後も続く緩和的な金融政策に注目すると我々は見込んでいます。”



ステファン・クロイツカンブ
チーフ・インベストメント・オフィサー
運用部門責任者

2021年の年間見通しを10月半ばに執筆したとしたら、違ったものになったでしょうか？答えは「イエス」ですが、部分的な違いにとどまるでしょう。我々の経済見通しはほとんど変わっていませんが、資産クラスの見通しに変化が見られました。マクロ経済で起きていることは我々の予測通りになっています。しかし、市場は大きなリスクを念頭に置いていました。現在そのようなリスクは和らぎ、それによって大きな調整に対する不安も和らいでいます。新年にかけて新しい楽観論が引き続き市場を下支えすると我々は考えます。

新型コロナウイルスの最初のワクチンについてのニュースや、米国の大統領選の結果、さらには四半期の経済および企業業績の数値といったものが市場の雰囲気を変化させました。市場が最も大きく反応したのは、ドイツのマインツからもたらされたワクチンの治験成功に関するニュースです。これは当然のことでしょう。新型コロナへの対応が進んでいることが当社の2021年の見通しの土台となっていますが、ワクチンの有効性が確かめられ、接種できるようになる日が近いということは全く異なる次元のものです。消費者も企業も初めてこのトンネルの先に光を見ることができたのです。我々は2021年末までに新型コロナの流行が概ね抑制されると予測しています。同時に、米国の大統領選は全般的にうまくいき、投資家に歓迎される結果となりました。米国の貿易相手国は、ジョー・バイデンの下でより予測可能な通商政策が打ち出されることを期待しています。一方で米国企業は、上院において引き続き共和党が多数を占めることが予想され、

大規模な増税が承認される可能性が低いことに胸をなでおろしているようです。市場がさらに上昇したのは、第3四半期のマクロ経済のデータと企業業績が双方ともに驚くほど前向きであったためです。今年春のロックダウンの後、多くの国で経済が極めて急速に回復したことが明らかになりました。

他の要因も浮き立つ雰囲気を作り出すことにつながりました。欧州連合(EU)は、コロナ対策として7,500億ユーロ規模の欧州復興基金に向けて動いており、世界の主要中央銀行はインフレ率上昇に対してすぐには反応しないという公約を掲げています。最後に、EUと英国との間でより建設的な交渉が行われるという可能性がおそらく高まりました。ボリス・ジョンソン首相に対する国内からの圧力が従来になく高まっており、首相の側近で物議を醸すことの多いドミニク・カミングスが政権を去ったためです。

これが個別資産クラスにとってどのような意味を持つのかという点は、まずは投資家の観点から全体像を検討しなければ理解できないでしょう。世界経済が2021年に2019年の生産高水準に戻ることができるのは、ひとえに中国のおかげです。とほいうものの、世界の株式市場¹は史上最高値となっています。この点はどのように説明付けられるのでしょうか？我々の見解では、力強い回復を期待できる一方で、生産能力に引き続き余裕があるために過熱やインフレのリスクがほとんどないことがその理由です。長い間景気後退の懸念がありましたが、当面の間この

¹ 2020年11月16日にMSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスは、2020年2月につけた史上最高値を約5%上回って取引されました。
出典：Bloomberg Finance L.P.

点は問題にならなさそうです。2020年にすでに景気後退が起きたためです。また、中央銀行は金融政策をさらに緩和させ、引締めを回避するという公約をいっそう堅持するようになっています。よって、当社が予測したよりも低金利の期間が長引くことが見込まれます。

企業収益の伸びと低金利の環境が株式に対する我々の楽観的な見通しの理由であり、この理由があるためリスクプレミアムを引き下げ株価収益率の目標を引き上げることができるのです。それによって、一桁台後半のさらなる上昇余地や、アジアについて言えば二桁台の上昇も視野にいれることができます。アジアはこのコロナ禍を非常にうまく乗り越え、債務の急増も回避することができました。また、当社が選好するテクノロジーおよびインターネットのセクターも抱えています。テクノロジーは米国市場においてより優勢であり、バリュエーションが平均を上回っているにもかかわらず当社は引き続きこのセクターを選好します。欧州市場は一見するとより好意的なバリュエーションのように見えますが、景気敏感株や輸出主導型の銘柄に対して投資家の関心は長続きしないことでしょう。2022年以降に予想されている低成長の環境においては、グロース株に依然として構造的な魅力があると我々は考えています。カーボンバランスがプラスのセクターにも同等の魅力があると考えます。このようなセクターは多くの場合当社のESG主導の投資アプローチによって見出されており、欧州の政策当局（近いうちに米国の政策当局も追随すると考えます）の「グリーンディール²」への注目を受けてさらに上昇するだろうと我々は考えています。

債券についてはほとんど変化がありません。リスクの高いセグメントも低金利環境から恩恵を受けています。2020年初頭の市場の混乱以来、危機以前の水準に回復していない社債指数もあります。2021年には社債に対する需要がほとんど変化せず、

社債発行は大幅に減少すると予測しています。ユーロ圏においては社債需要は欧州中央銀行に下支えされた状態が続きます。原材料価格が安定し米ドルが概ね横ばいのトレンドとなっている状況では、新興国においても引き続き特定の地域とセクターに明るい機会があると見ています。10年物米国国債の利回りは1%前後で取引されると見ており、ドイツ国債は横ばいでごくわずかな上昇トレンドになると予測しています。

金には上昇余地があると見ています。とりわけ、現在の財政政策や金融政策に下支えされているため、1トロイオンス=2,100米ドルまで上昇する可能性があります。石油については、経済回復によって期待できるほどの価格上昇余地はないと見込んでいます。特にサウジアラビアとロシアがいつでもすぐに生産を拡大できるためです。

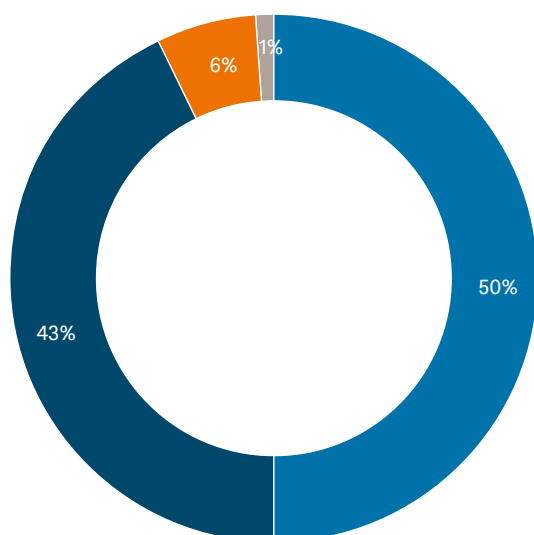
不動産市場は2020年に二極化が大幅に進みました。住宅は好調でしたが、小売、ホテル、レジャーは苦戦しました。我々は苦戦したセクターについては引き続き慎重であり、産業不動産と住宅不動産、さらには特定のオフィス不動産を選好します。

資本市場の楽観的な見通しは、このコロナ禍の中では驚きを持って受け止められるかもしれませんが、もちろん、リスクに終わりはありません。今予測できるリスクにも終わりはないのです。プレグジットに関連したことや米国大統領選の結果として突発的な事柄が生じたり、さらには新型コロナとの闘いが後退するといったことを全く否定することはできません。さらなる自然災害や地政学的な衝突の可能性も排除できません。しかし我々は、引き続き市場が主に収益成長と低金利によって動かされると予測しています。このような理由から、我々は2021年に対して非常に楽観的なのです。

² 地球温暖化と気候変動全般を抑制するために温室効果ガス排出の削減を目指す広義の政策

欧州の投資家向けアセットアロケーション

2020年は目まぐるしい年でしたが、2021年経済は正常化に向かうものと考えます。
景気回復と中央銀行による支援策はセーフティネットとしての役割を果たすでしょう。

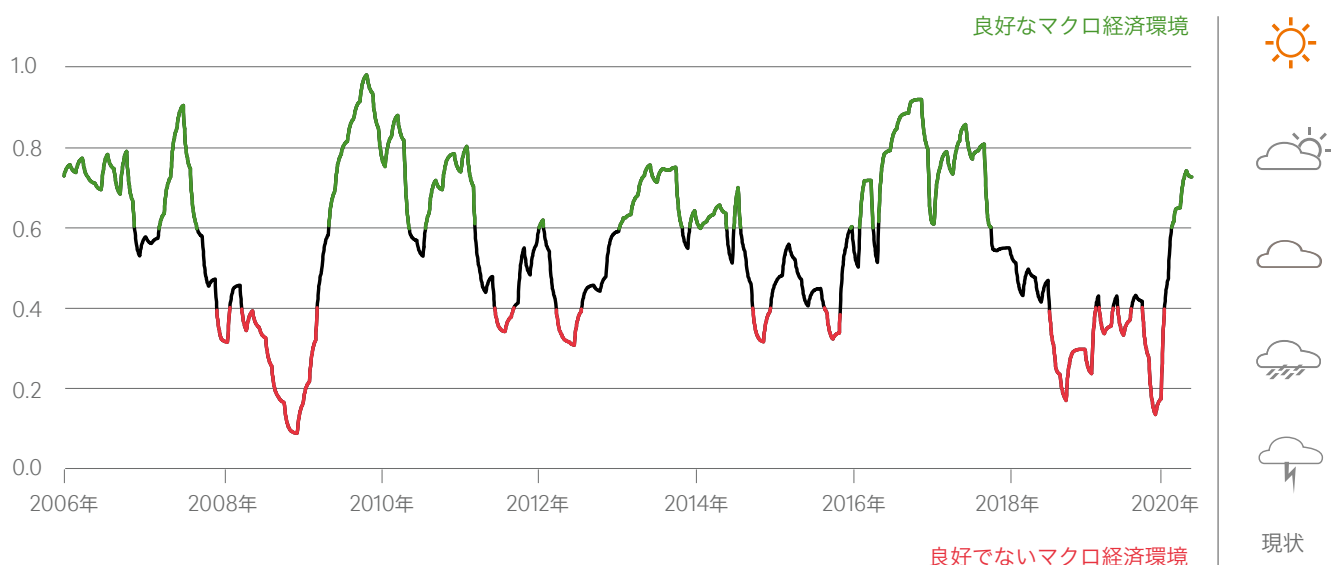


株式	50%
米国株式	27%
欧州株式	8.5%
新興国株式	7%
グローバル株式	5%
日本株式	2.5%
債券	43%
ユーロ投資適格社債	12%
新興国（主要通貨建）債券	8%
ユーロ圏ソブリン債	7%
米国国債	5%
ユーロ・ハイ・イールド社債	5%
米国投資適格社債	4%
米国ハイ・イールド社債	2%
オルタナティブ	6%
コモディティ	6%
現金	1%

出所：マルチアセット・グループ、DWSインベストメントGmbH、2020年11月25日時点

上記アセットアロケーションは、DWSが現時点で考えるユーロ建のバランス型ポートフォリオです。すべてのお客様に適しているものではありません。また、予告なく変更されることがあります。

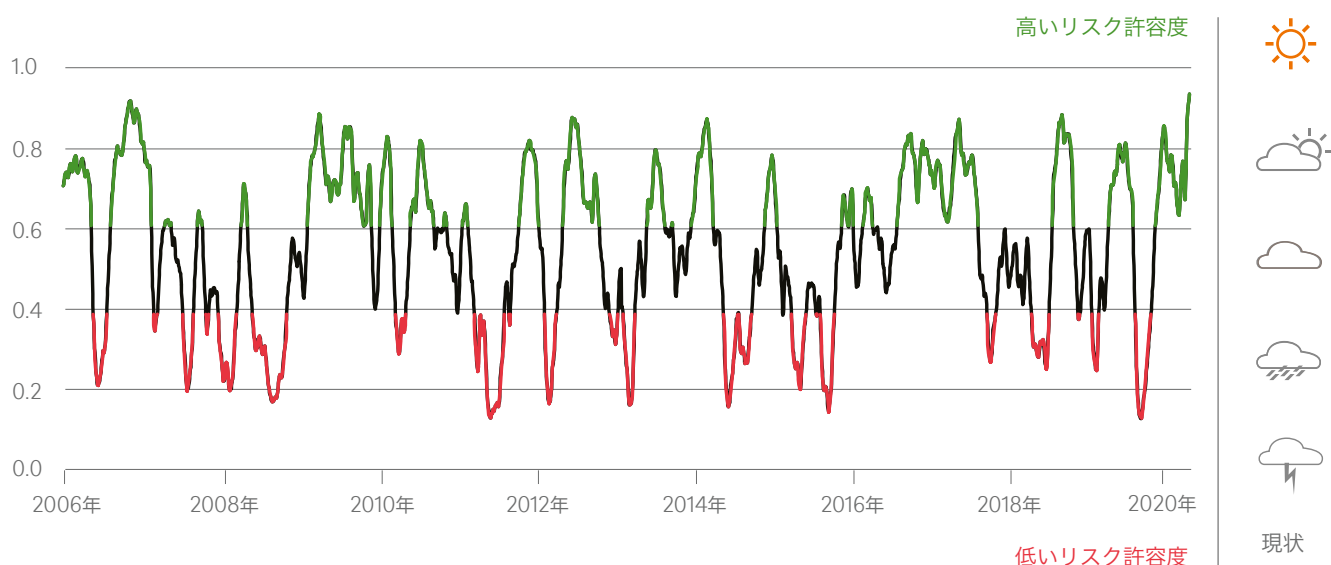
マクロ経済指標 / マクロ経済指標は広範な経済指標を集約したものです。



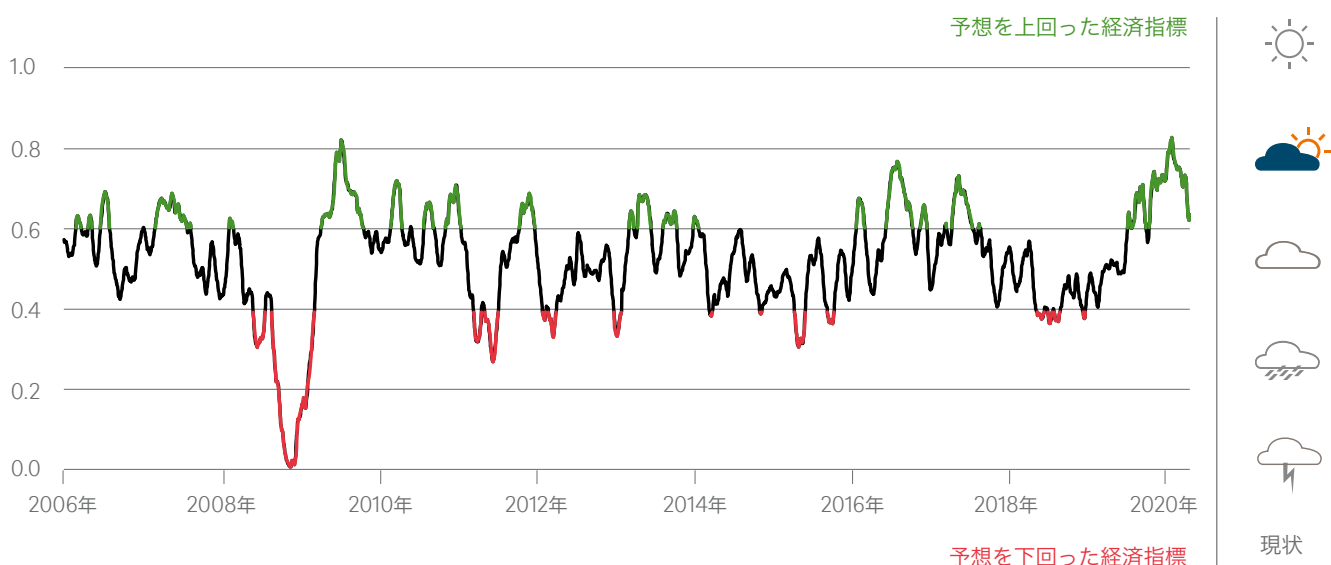
出所：DWSインベストメントGmbH、2020年11月26日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年11月25日時点および2020年11月26日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

リスク指標 / リスク指標は金融市場における投資家の足元のリスク許容度を反映したものです。



サプライズ指標 / サプライズ指標は実際の経済指標と事前の市場予想を比べたものです。



出所: DWSインベストメントGmbH、2020年11月26日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。オルタナティブ投資は投機的になる可能性があり、非流動性、損失の可能性の高さ、不透明性を含む重大なリスクを伴います。オルタナティブ投資はすべてのお客様に適しているものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年11月26日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。投資にはリスクが伴います。運用資産額が変動し、損益が発生する場合があります。また、元本が保証されるものではありません。

2020年11月19日

市場環境の急激な変化により、これらの予測は変更になる場合があります。

マクロ経済／慎重ながらも楽観的

GDP成長率(対前年比、単位：％)

国・地域	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	-4.4	↗	4.0
ユーロ圏	-8.5	↗	5.5
英国	-10	↗	4.5
日本	-5.5	↗	3.0
中国	2.2	↗	8.2
世界	-4.3	↗	5.2

財政赤字(対GDP比、単位：％)

国・地域	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	18.0	↘	15.0
ユーロ圏	9.7	↘	6.0
英国	18.0	↘	8.0
日本	14.0	↘	6.0
中国	11.9	↘	11.8

消費者物価指数(対前年比、単位：％)

国・地域	2020年(予測)		2021年(予測)
米国 ¹	1.6	↗	1.8
ユーロ圏	0.3	↗	1.0
英国	0.9	↗	1.5
日本	0.0	↗	0.2
中国	2.9	↘	2.0

経常収支(対GDP比、単位：％)

国・地域	2020年(予測)		2021年(予測)
米国	-2.5	→	-2.5
ユーロ圏	3.4	↘	3.0
英国	-2.8	↘	-4.0
日本	3.6	↘	3.2
中国	1.5	↘	1.2

指標金利(単位：％)

国・地域	現在値*		2021年12月(予測)
米国	0.00-0.25	→	0.00-0.25
ユーロ圏	-0.50	→	-0.50
英国	0.10	→	0.10
日本	0.00	→	0.00
中国	3.85	↘	3.55

商品市況(米ドル建)

	現在値*		2021年12月(予測)
原油(WTI)	41.1	↗	49
金	1,877	↗	2,100
銅(LME)	6,934	→	6,950

* 出所：ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2020年11月12日時点

¹ コアレート、12月個人消費支出(前年同月比)(％)

予測は2020年11月12日時点の見通しです。

WTI：ウェスト・テキサス・インターミディエート

LME：ロンドン金属取引所

当ページ以降の記号表記について

マクロ経済データ、為替相場およびオルタナティブ投資：

矢印は以下の見通しを示します。

(↗) 上昇の可能性、(→) 横ばい傾向、(↘) 下落の可能性

矢印の色はロングオンリー戦略でのリターンの見通しを示しています。

- ロングオンリーの投資家にとってプラスリターンの可能性
- プラスリターンの機会は限定的で、マイナスリターンの可能性もあり
- ロングオンリーの投資家にとってマイナスリターンの可能性

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年11月12日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

株式／金利は低く、バリュエーションは高まる

	現在値*		2021年12月 (予測)				
			予測値	トータルリターン (予測) ¹	企業利益成長率 (予測)	株価収益率 への影響	配当利回り
米国(S&P500種株価指数)	3,537 ●		3,800	9.2%	31%	-23%	1.7%
欧州(ストックス・ヨーロッパ600指数)	385 ●		400	6.7%	26%	-22%	2.9%
ユーロ圏(ユーロ・ストックス50指数)	3,428 ●		3,500	4.9%	25%	-23%	2.8%
ドイツ(DAX指数) ²	13,053 ●		14,000	7.3%	25%	-20%	2.7%
英国(FTSE100種指数)	6,339 ●		6,400	4.8%	25%	-24%	3.9%
スイス(SMI指数)	10,496 ●		10,900	6.8%	13%	-9%	3.0%
日本(MSCI ジャパン・インデックス)	1,050 ●		1,100	6.6%	25%	-20%	1.9%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス(米ドル建)	1,182 ●		1,280	10.6%	28%	-20%	2.3%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス(米ドル建)	778 ●		850	11.5%	24%	-15%	2.2%

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、ファクトセット・リサーチ・システムズ、2020年11月12日時点 予測は2020年11月12日時点の見通しです。

¹ トータルリターン(予測)は、利回り、配当、キャピタルゲインを含みます。

² トータルリターン・インデックス(配当込)

債券／クレジットは依然として下支えされる

米国

	現在値*		2021年12月(予測)
米国国債(10年物)	0.88% ●		1.00%
米国地方債 ¹	96% ●		90%
米国投資適格社債	109 bp ●		90 bp
米国ハイ・イールド社債	435 bp ●		370 bp
証券化商品: モーゲージ証券 ²	49 bp ●		45 bp

欧州

	現在値*		2021年12月(予測)
ドイツ国債(10年物)	-0.54% ●		-0.50%
英国国債(10年物)	0.35% ●		0.30%
ユーロ投資適格社債 ³	107 bp ●		85 bp
ユーロ・ハイ・イールド社債 ³	414 bp ●		380 bp
証券化商品: カバードボンド ³	34 bp ●		40 bp
イタリア国債(10年物) ³	122 bp ●		120 bp

* 出所: ブルームバーグ・ファイナンスL.P.、2020年11月12日時点

¹ 10年物米国国債に対する10年物地方債(AAA格)の比率

² ブルームバーグ・パークレイズMBSフォワード・インデックス

³ ドイツ国債に対するスプレッド

アジア太平洋

	現在値*		2021年12月(予測)
日本国債(10年物)	0.03% ●		0.00%
アジア社債	311 bp ●		300 bp

世界

	現在値*		2021年12月(予測)
新興国ソブリン債	380 bp ●		350 bp
新興国社債	358 bp ●		320 bp

通貨

	現在値*		2021年12月(予測)
ユーロ(対 米ドル)	1.18 ➡		1.15
米ドル(対 日本円)	105 ➡		105
ユーロ(対 英ポンド)	0.90 ➡		0.90
英ポンド(対 米ドル)	1.31 ➡		1.27
米ドル(対 中国元)	6.61 ➡		6.80

予測は2020年11月12日時点の見通しです。

bp=ベースポイント

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年11月12日時点のDWSインベストメントGmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

パフォーマンス / 概要

過去12カ月毎のパフォーマンス

	2015年10月 -2016年10月	2016年10月 -2017年10月	2017年10月 -2018年10月	2018年10月 -2019年10月	2019年10月 -2020年10月
アジア社債	7.8%	3.4%	-2.5%	12.6%	5.0%
DAX指数	-1.7%	24.0%	-13.5%	12.4%	-10.2%
新興国ソブリン債	11.6%	5.9%	-5.3%	13.7%	2.0%
新興国社債	9.9%	6.5%	-1.9%	13.0%	4.9%
ユーロ・ハイ・イールド社債	7.1%	7.8%	-1.3%	5.2%	-0.2%
ユーロ投資適格社債	5.1%	2.3%	-1.2%	6.1%	1.2%
ユーロ証券化商品:カバードボンド	2.7%	-0.1%	-0.2%	3.8%	1.3%
ユーロ・ストックス50指数	-8.0%	23.3%	-10.6%	15.9%	-16.2%
FTSE100種指数	13.8%	12.1%	-0.9%	6.4%	-20.4%
ドイツ国債(10年物)	3.8%	-0.3%	0.8%	6.2%	1.6%
イタリア国債(10年物)	1.9%	1.9%	-8.3%	22.3%	3.9%
日本国債(10年物)	3.0%	-0.8%	0.0%	2.5%	-1.3%
MSCI AC アジア(除く日本)インデックス	6.6%	30.4%	-13.6%	13.2%	15.9%
MSCI AC ワールド・インデックス	-0.1%	20.8%	-2.4%	10.3%	3.1%
MSCI エマージング・マーケット・インデックス	9.3%	26.5%	-12.5%	11.9%	8.3%
MSCI ジャパン・インデックス	3.2%	17.8%	-3.6%	9.2%	0.3%
S&P500種株価指数	4.5%	23.6%	7.3%	14.3%	9.7%
ストックス・ヨーロッパ600指数	-6.2%	20.6%	-5.2%	14.0%	-11.4%
SMI指数	-9.2%	22.0%	1.0%	17.1%	-3.0%
米国ハイ・イールド社債	10.1%	8.9%	1.0%	8.4%	3.5%
米国投資適格社債	6.9%	3.2%	-2.8%	14.9%	6.7%
米国証券化商品:モーゲージ証券	3.3%	0.5%	-1.5%	8.9%	3.9%
米国国債(10年物)	4.6%	-1.8%	-3.2%	14.6%	8.5%
英国国債(10年物)	7.2%	1.1%	1.2%	7.9%	3.2%

出所:ブルームバーグ・ファイナンスL.P., 2020年10月31日時点

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメント GmbHが作成したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。当資料記載の予測は、2020年11月12日時点のDWSインベストメント GmbHの見解であり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。

会社紹介

DWSについて¹

すべての主要な資産クラスを網羅した商品及び運用ソリューションを通じて、幅広い投資機会へのアクセスを投資家に提供。その運用ソリューションは投資信託から高度にカスタマイズされたポートフォリオの構築まで多岐にわたる

個人投資家及び機関投資家のお客様に、伝統的資産からオルタナティブに至る幅広い資産運用ソリューションを提供

約7,591億ユーロの運用資産残高(2020年9月末時点)を誇る世界有数の資産運用機関

チーフ・インベストメント・オフィスについて

DWSのグローバル・チーフ・インベストメント・オフィサーであるステファン・クロイツカンプが統括し、DWSの運用プロセスの中心的役割を果たす

経済及び市場に関する統一された見解の策定のため、グローバルな運用体制が有する専門性を集結

グローバル投資見通しであるCIOビューを策定する

ポートフォリオ・マネジメント、調査及び営業チームの連携のための窓口となり、円滑な意思疎通を可能にする

¹ DWSはDWSグループGmbH&Co.KGaA及びその子会社が事業活動を行う上でのブランド名です。DWSの商品やサービスは、契約書、合意書、提案資料または該当商品やサービスの関連書類に明記された法人よりお客様へ提供されます。

※2018年3月、ドイツ・アセット・マネジメントは、欧州、特にドイツにおいて広く認知されている「DWS」を世界共通ブランドとして採用しました。

ご留意事項

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の投資商品の推奨や投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は、信頼できる情報をもとにDWSインベストメントGmbHが作成し、2020年12月10日に発行したものをドイツ・アセット・マネジメント株式会社が翻訳して提供しておりますが、正確性・完全性についてドイツ・アセット・マネジメント株式会社が責任を負うものではありません。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。市場や経済に関するデータや過去の運用実績は記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。投資にはリスクが伴います。価格変動等により、当初投資元本を割り込むことがあります。

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ドイツ・アセット・マネジメント株式会社は、DWSグループの日本における拠点であり、投資信託ビジネス・機関投資家向け運用ソリューションの提供における長年の経験、ノウハウ及び実績を有します。グローバルな運用体制と独自の洞察力を駆使した質の高いサービスをご提供するとともに、日本市場の資産運用ニーズに的確にお応えすることを目指します。

